

え る の あ

目次

報告 女性プラザ祭2021 …………… 1	イベント紹介 …………… 2・3
女も男もワイワイセッションレポート … 2・3	インフォメーション …………… 4

報告 女性プラザ祭2021

講演会 トークライブ『私がオバさんになって』



作家：桜木紫乃さん

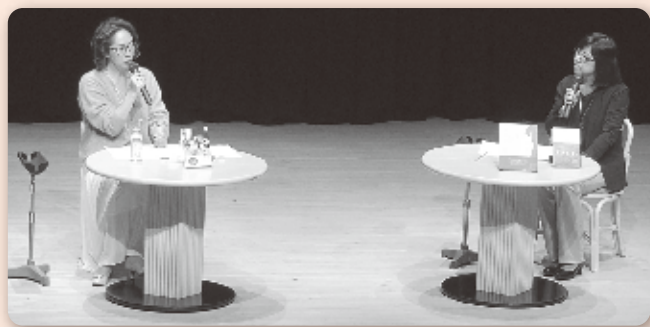
聞き手：大津洋子さん
(フリーアナウンサー)

今年は北海道立女性プラザ開館30周年。この記念すべき年の女性プラザ祭講演会は、作家の桜木紫乃さん、聞き手にフリーアナウンサーの大津洋子さんをお招きし、『私がオバさんになって』と題してトークライブを開催しました。

デビュー20周年を迎えた桜木さん。これまでの作家活動の時間を振り返りながら、家族との関係や作家という仕事について、作品に込めた思いなどを語っていただくとともに、オバさんになって感じることや桜木さんがこれまでに出会った素敵な女性たちとの数々のエピソードもご紹介いただきました。

トークライブの最後には、「好きなことばかりやっていたらオバさんと呼ばれる年になっていた。“ワクワクしたらやってみる”というのが私が最近大事にしているスタンス。そして、このくらいの年齢になると頼りがいのある勤が育っていて、自分の勤を頼りにしてやっても良い結果が待っている気がする。勤を手に入れたオバさんの自分を受け入れて、これからもワクワクし続けようと思っている。ワクワクの先にまた皆さんにお会いできたら嬉しいです。」と桜木さんから会場の皆さんにメッセージをいただきました。

桜木さんと大津さんの軽妙なトークと掛け合いに会場が笑顔であふれた90分でした。



「知ってもらいたい家族がいる」

～写真展・音声配信～

障がいを持つ子どもとその家族の姿を写真や音声、スライド映像とともに紹介しました。

「知ること」は誰にでもできる小さな支援の始まり。子ども専門の作業療法士、青木美紀さんの思いから生まれた展示イベントです。会場には写真家の福添麻美さんが撮影した写真が並びました。

連日多くの来場者が訪れ、熱心な様子で写真の中の子どもや家族の姿を見つめていました。



ミニコンサート

～たったひとつの命だから～

プラザ祭のフィナーレを飾ったのは、昨年大きな反響を呼んだ、シンガーソングライターでワンライブプロジェクト札幌支部代表の雪さんによるミニコンサート♪

今年はMichiさんなど多数のゲストもお招きして開催しました。「命」や「生きること」について寄せられた心温まるエピソードの朗読や歌に、沢山の感動をもらった最終日でした。



女も男もワイワイセッション リポート



司会
太細 真弥さん

フリーアナウンサー
農家見習い



ロールモデル
森崎 三記子さん

株式会社MOKA.代表取締役
釧路モカ女性プロジェクト代表



ロールモデル
矢野根 絵里子さん

feel助産院院長
札幌feeling子育ての会代表



ロールモデル
齋藤 貴子さん

womom代表
womomラボ主宰

アクションHIROBA

女性の自分らしい生き方を応援！ ロールモデルからのメッセージ

太細:現在の仕事や活動、自分でやってみようと思ったきっかけを教えてください。

森崎:東日本大震災があった年、勤務していたハローワークに来る女性たちがみんな一様に下を向いている姿を見て、女性が集まって元気になれることができないかと、団体(釧路モカ女性プロジェクト)を立ち上げました。基本の性格は内弁慶で、出来上がっているコミュニティに自分から入っていくのは苦手。だったら自分で作ってしまおうと。団体の運営費を稼ぐために考案、製作した漁網タオルの販売がきっかけで、団体内包した株式会社MOKA.も設立しました。本業はキャリアコンサルタントで、一人ひとりの人生キャリアを考え、女性の未来を作る仕事として取り組んでいます。

矢野根:今はお産の現場を離れ、産後のお母さんと赤ちゃんのお世話を応援するという立場で子育て支援の市民活動と助産院での産後ケア事業をやっています。自身が第二子の子育てでつまずき、悩んだことが活動のきっかけです。同じような悩みを抱えている人を応援したいと思い、2006年に「札幌feeling子育ての会」を設立しました。その活動の中で学んだことなどを伝える場として、2017年には自分の助産院を構えました。母子に妊娠中から関わり、産後の子育てがラクに楽しくできるような流れを作りたいと考えています。

齋藤:womomは、「女性も母も仕事も、何事も面白い持続可能な私」ということで、英語の頭文字をとって名づけた造語です。夫の転職によって好きだった

仕事を辞め、再び就職しましたが、出産後は子育てとの両立の難しさに直面しました。転勤族としてこの先もずっと、就活と就職、離職を繰り返していくのかと思うと自分がどんどん先細っていくような不安感にさいなまれ、どうにかできないか考えるようになりました。仕事も家事・育児も両立したい、プライベートも充実させたい、でも一人で持続は難しい。そんな女性たちが気軽に話したり、仲間と応援し合える場作りが必要と感じ、1年半くらい前、オンラインコミュニティ「womomラボ」を立ち上げました。今後は情報サイトの開設や、企業や団体、コミュニティメンバーとのコラボ企画なども考えているところです。

太細:コミュニティを運営し活動する中で、自身がやって良かったと感じる部分は、

矢野根:子育て支援活動は15年ほど続けていますが、活動している中で出会ったお母さんたちの中で、例えばヨガをやっているという方をスカウトして、その人を先生にした教室を開くといった取り組みもしていました。お母さんたちが自分のできることを喜んでやっている姿を見るのも嬉しいし、そんな人たちと出会えることも楽しい。活動仲間の助産師同士で勉強や情報交換し合うことで、自分たちが成長できることも喜びです。子どもが私の仕事をいいなと言ってくれるのも嬉しい限りです。

森崎:自分の人生は自分しか生きられないのだから、自分がどうしたいのか、そこを中心に考えて欲しいと常々思っています。キャリアコンサルタントという

のは、沢山の人と関わり、ともすればその人の人生を変えるような相談を受けることもあります。でも気づきを得るのはあくまで本人。それを知ってもらうよう働きかけています。若い世代では、気づきを得て自分がやりたいことを発信したり、活動する人が増えてきていますが、結局のところ、私はそれを望んでいたんだ、それをやりたかったんだと思うし、そこに携われていることにとても感謝しています。

齋藤:私自身は人が苦手なんです。そうは言いながらも、コミュニティがあって一番助けられているのは実は私自身だと感じています。コミュニティに集まってくださる方は会社員や起業家、主婦など多種多様で、現在20代から70代まで幅広いメンバーがいます。皆さん様々な視点や知識を持っているので、気づきを得ることが多いです。

太細:走り続けている皆さんですが、活動の「やめどき」というのはどう考えていますか。

矢野根:私が15年前に活動を始めた時は、現在のように子育て支援の動きも盛んではなく、子育てサロンもありませんでした。今は必要性が叫ばれ、様々な支援が整ってきたように思います。助けを求めれば、助けてくれる人がすぐそばにいる状況になってきました。私の中で、お母さんと子ども、孫のような世代の人たちが幸せなところを見たいというぼんやりした目標があって、それが叶い、幸せなおばあちゃんになれたらやめるかもしれません。

森崎:私は一人暮らしなので、死ぬまでお金を稼ぎ続ける必要があります(笑)が、団体については後継者を作ることを意識しています。メンバーはそれぞれにやりたいことがあり、皆独立していくので、私がリタイアした時には団体がどうなるかわかりませんが、「想い」をつなげ、「つながり」を継続してくれる人が出てきてほしいと願っています。資金面も重要なので、団体に活動資金ができるようまだまだ頑張りたいです。

齋藤:有料でのオンラインコミュニティの運営は、私自身が持続不可能と思った時にやめるかもしれませんが、無料にして、運営を皆に割り振ることができれば持続するかもしれない。そこが判断のポイントが

と思います。女性が何かを持続したり、社会で活躍していくためのサポートをすることは大切だと考えているので、womomについては形を変えながらもずっと続けていきたいです。

太細:今回のテーマでもある「自分らしく生きる」というのは皆さんにとってどういったことですか。

齋藤:人は苦手だけれど、自分らしい生き方を見つけるには、やはり人とのつながりしかないのではと思います。リアルであれオンラインであれ、色々な人の価値観や生き方に触れることが一番の学びや力になると思うし、その中から自分らしい生き方がなんとなく見えてくるのではないのでしょうか。

矢野根:私自身は、ホッとできる、安心できる場所に自分らしさを見つけながら、子育てや仕事をしていきたいと思っています。自分が嫌なこと、苦手なことだと自分らしさをあまり表現できないと思うので、そこを頑張り過ぎず、自分が何を好きで何が安心なのかを探し、それを増やしていく。それが私なりの自分らしく生きるだと思っています。

森崎:自分らしくというキーワードで話をすると、人の影に隠れ、依存心あふれた姿が自分らしい自分なのですが、それだと人生楽しくないと、俯瞰して言っている自分もいるんです。だったら自分らしさと真逆でも自分のやりたいことに一歩を踏み出してみる。やらない後悔よりやった後悔、やってみて失敗したほうが人生楽しいんじゃないかと思い、それを今は自分らしく生きるということにしています。

太細:挑戦こそ自分らしい生き方を見つける一歩ですね。皆さん本日はありがとうございました。



(主催)北海道
(運営)「令和3年度女性活躍応援事業実施業務」受託コンソーシアム

イベント紹介

プラザ祭期間中は様々なイベントを開催しました。その一部を写真とともにご紹介します。

オープニングコンサート



美しい音色を響かせるピアノ演奏で幕開けです。

アクションHIROBA



女性起業家の事業を体験できるイベントを実施しました。

DVD上映会



かでのホールにて「ターシャ・テューダー 静かな水の物語」を上映しました。

プラザぎゃらりい



女性プラザや他団体についてパネルや動画で紹介しました。

女性セミナー



「食品表示セミナー」
主催：北海道女性団体連絡協議会

憲法カフェ

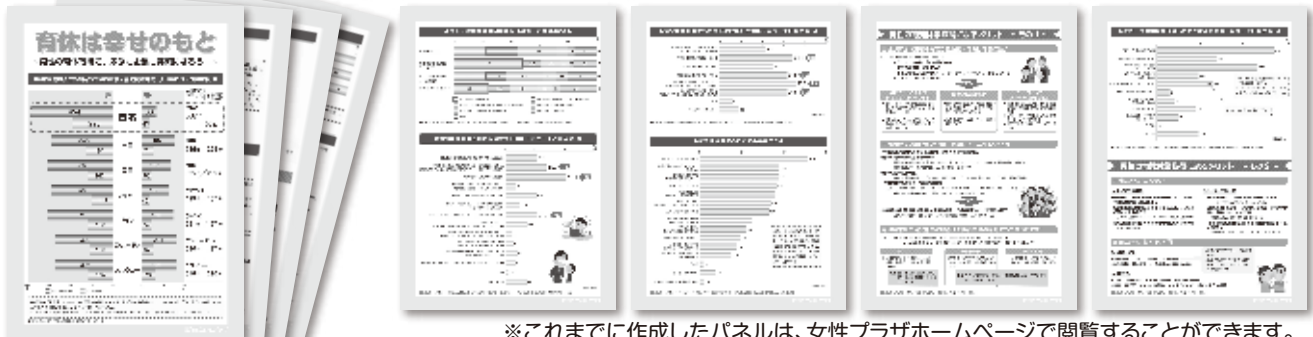


「新しい家族のあり方・離婚後共同親権について考えよう」
主催：北海道ジェンダー研究会

インフォメーション

パネルの貸出しについて

当プラザでは、所蔵するパネルを無料で貸出ししております。令和3年度に作成した新しいパネルのテーマは「育休は幸せのもと～男性の育休取得で、家族も企業も笑顔になるう！～」です。各自治体や地域での啓発活動に是非お役立て下さい。



(寸法/各: 縦73.5cm×横52.5cm) 計8枚

※これまでに作成したパネルは、女性プラザホームページで閲覧することができます。申し込み方法など詳細についてはお問い合わせ下さい。

情報提供フロアよりピックアップ書籍 令和3年度新着図書から



コーヒーで読み解くSDGs
José.川島 良彰、池本 幸生、山下 加夏 著
ポプラ社



ボクは食器洗いをやっていただけで、
家事をやっていたらなかった。
土屋 礼央 著
KADOKAWA

マンガでわかるLGBTQ+
パレットーク 著
講談社



九十八歳。戦いやまず日は暮れず
佐藤 愛子 著
小学館



ケアメン講座のお知らせ **参加無料**

- 日 時：令和4年3月5日(土) 13:30～15:30
- 会 場：かでの2・7 7階 730研修室 ※オンライン併用開催
- 定 員：会場20人・オンライン20人
- 申 込：電話かメール又は女性プラザ窓口でお申し込みください。
※オンライン参加をご希望の場合はメールにてお申し込みください。
- 【電 話】011-251-6329 (9時～17時 *日曜・祝日は除く)
- 【メール】info@l-north.jp (lは小文字のLです)
- ※メールの方は、①ケアメン講座参加希望 ②お名前 ③電話番号を明記ください。
- ※感染症対策のため、開催中止となる場合がございます。
- 第一部：「栗山町におけるケアラー支援の取り組み」
一次代に備え心の改革を—
講 師：栗山町社会福祉協議会 ケアラー支援室 参与 吉田 義人 氏
- 第二部：「介護保険の改正とサービス内容」
講 師：さっぽろ社会福祉士事務所 代表 大島 康雄 氏
- 交流会：介護についての悩みや疑問を気軽に語り合いましょ!

オンライン相談 始めました!



女性の活躍支援センターでは、遠方に居住しているなどの理由で来所することが困難な方でも、支援員と顔を合わせながら相談できる機会を幅広く提供するため、Zoomによるオンライン相談を開始しました。

相談時間は1回30分です。利用希望者はメール (info@l-north.jp) にてお申し込みください。

ご利用の流れなど詳しくは女性プラザホームページへ。

- 「えるのす」「道立女性プラザ」に対するご意見、ご感想、ご要望などをお寄せください。
- 「えるのす」は女性(Lady)の頭文字と、北(North)の造語です。

発行/北海道立女性プラザ(指定管理者:公益財団法人北海道女性協会)

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでの2・7 6階 ☎(011)251-6329・6349

【ホームページアドレス】<https://l-north.jp/>

(休館日:日曜・祝日・年末年始) (開館時間:月～金9:00～21:00、土9:00～17:00) *お問い合わせは9:00～17:00をお願いします。